

誰も知らなかった真実の物語?! 新・白山＝“ハム山”誕生物語

自己のワクワク“アセンション日記”より

世界初の **アセンション・アニメ?!**

『ハム(愛)パンデミック?! 中今のハム山2025』

《新・白山誕生物語》

【6】

2023.2.建国記念日 “白山下山仏”のイニシエーション?!

2023年2月11日建国記念日に、故郷白山麓白峰にある“林西寺”を訪れました。

明治期の神仏分離令により、白山より降ろされたとされる“下山仏8体”が祀られていて、
ずっと気になっていた場所でもありました。^^

(現在は、“泰澄大師座像”を除く、7体となっているようです。)

向かって左から、地蔵菩薩座像、十一面観世音菩薩立像、阿弥陀如来座像(大汝峰山頂)、
十一面観世音菩薩座像(御前峰山頂)、聖観世音菩薩座像(別山山頂)、薬師如来座像、
釈迦如来像の7体です。(大汝峰、御前峰、別山は、白山三山と呼ばれています。)

中心にあるのが、白山最高峰である御前峰山上において、泰澄大師の前に現れたとされる
“十一面観世音菩薩”で、白山の本地仏と言われます。^^

白山は何故、十一面観音なのだろう…?と考えていて浮かんできたのが、“生命の樹”です。

『生命の樹』は、エデンの園の中央に植えられた命の木、カバラのセフィロト、

仏教の宇宙樹等、様々な場面で、様々な表現で伝えられてきた、

宇宙森羅万象の秩序が体現されたもの＝全てが一なる光の源へと向かって伸びていくという

生命の本質が描かれたものなのではないでしょうか?

(以下は、自身が感じる、十一面観音菩と生命の樹＝セフィロトの樹についてです。^^)

カバラ(ユダヤ教の神秘思想)における生命の樹＝セフィロトの樹は、

隠されたセフィラと言われる“ダート”を含め、11個のセフィラで構成されていて、

「十一面」と「11のセフィラ」には、何かつながりがあるような気がします？

十一面観音には、正面からは見る事のできない後頭部に、“大笑面”と言われる、まるで

煩惱だらけの人の愚かさを笑い飛ばすかのような顔(面)が付いていて、

セフィロの樹の隠されたセフィラ=ダートを思わせます。

ダートは、「他のセフィラとは異なる次元の存在であり、至高の三角とその下位存在を

隔てている深淵(アビス)にあるものとされる(ウィキペディア)」とあり、

ダートや大笑面には、全体を見渡しているその本質でもある“ハイアーセルフ”を感じます。

宇宙そのものを表す生命の樹全体(セフィロの樹、十一面観音)から、“天之御中主大神”が、

隠されているダートや大笑面から“菊理姫”がイメージされます。^^

セフィロの樹(生命の樹)のトップには本来、“アイン”(無、無限の光)が存在するとされます。

地上セルフもそれまで知らなかったのですが、アインをイメージしてみると

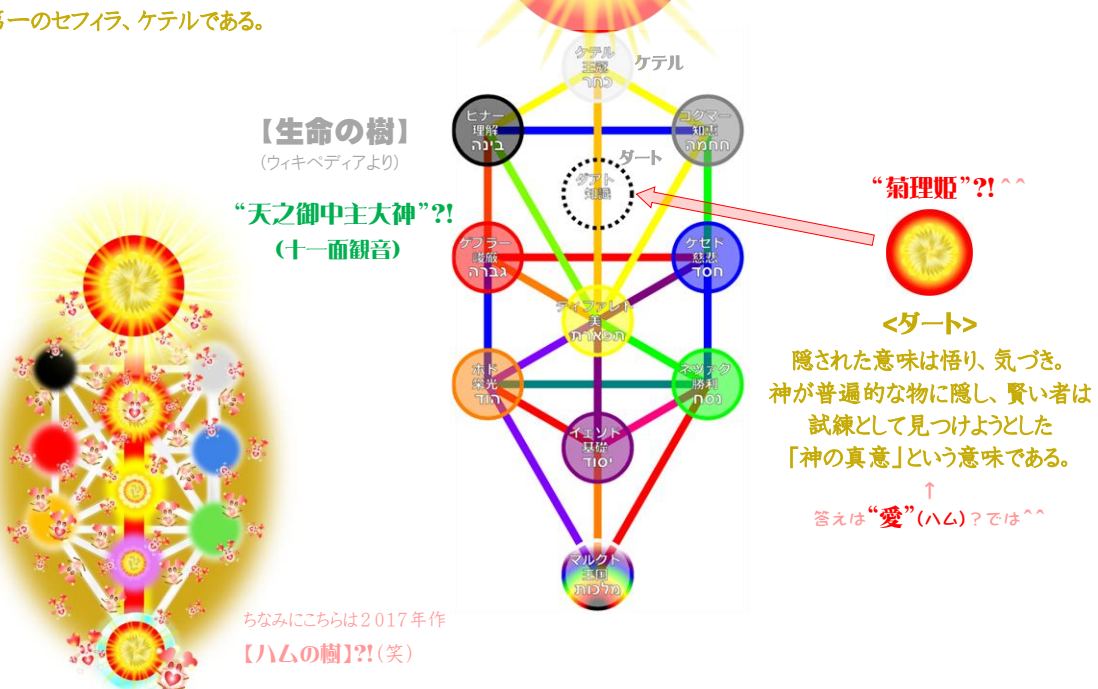
自己の中心(魂、中心太陽)から光が溢れ、

全身に喜びと活力がみなぎっていくのを感じ、まさに！でした。^^

○三種の無(アイン)

この三者は、超越的実在がヴェールによって隠された「非存在のヴェール」とも呼ばれる。アイン・ソフ・オウルが一点に集中したものが、第一のセフィラ、ケテルである。

□: アイン (無)
□□: アイン・ソフ (無限)
□□□: アイン・ソフ・オウル (無限光)



旧宇宙の象徴である天之御中主大神とアイン(光の源＝根源天照皇太神)をつなぐのが菊理姫であり、これが“白山＝十一面観音”?!に秘められていた意味だったのでは?と。^^

(中今、天之御中主大神の中心に根源太陽＝アイン輝く、天之御中主太神となっている?!)

地上セルフは、林西寺の鐘々たる下山仏を前に、故郷の懐かしさを覚え、ただ一人、

ぼ～っと座っていただけなのですが(申し訳ないです)、後になって、

そこはとても重要なイニシエーションの場であったのでは?と感じられてきたのです。

地蔵菩薩は釈迦如来より、自身の入滅から“弥勒菩薩”が現われるまでの無明世界において、

衆生を救ってほしい!と頼まれたとされ、

眼前に並ぶ下山仏の両端にあったのは、まさに地蔵菩薩と釈迦如来の姿――、

そこに、仏界(全ての仏様)の願いが見えているのではないのでしょうか?

弥勒菩薩とは私達一人一人の事であり、救世の使命を引き継いでいく時が今なのだ!

地上セルフは確かにそのバトンを受け取りました!走り続けていきます!^^

2023年6月 日の本の龍体“国常立大神”が動いた?!

2023年5月24日、“白山手取川ジオパーク”が、“ユネスコ世界ジオパーク”に正式認定!

という素晴らしい情報を耳にし、とても重要な意味を持つのでは?と感じました。

世界遺産が、その保護を目的とするのに対して、ジオパークは保護と活用の両立が目標であり、

これまで人を中心として動いてきた社会が、自然界(神々)と人との共生の場、

協働創造の場へとシフトしていく、その雛形となる!という事ではないのでしょうか?^^

ネットのホームページにて、『白山手取川ジオパーク・ストーリームービー』を覗いてみると、

最初に出てきたのが、なんと!自身の故郷ではありませんか?!

ワクワク・ドキドキで続きを見ていくと、

まだ日本列島がユーラシア大陸の一部となっていた場面から、

徐々に大陸の淵が割れはじめ、“日本列島”という姿となって、独立顕現?!した瞬間、

自身の中に、日の本の龍体(国常立大神)が動いた?!という、大きな衝撃が走りました！
(今見ると普通の映像なのですが、その時は、日本列島が自身の魂に飛び込んだ！という感じでした。^^)

地上セルフも動かなくては?!との思いから(でも何をすれば…ですが)、石川県にある、

3つの神社(白山比咩神社、金劔宮、金澤神社)の正式参拝を決めました。

白山比咩神社は宇宙の総合窓口？金劔宮は日本神界(龍宮、シャンバラ)の窓口？
金澤神社は新 G(根源神界&根源天界)の窓口？と、なんとなくこのようなイメージがあり、
宇宙(神界&天界)と大きく連動して動く必要があるのでは？と感じたからです。^^

6月1日(おついたち)“白山比咩神社”からスタートしました。

午前10時の昇殿参拝は、氏子総代である大会社の代表の方や、県内外の企業の方々が
参拝される、特別な時間帯であったようで、自身は場違いな所にきてしまったと、
身が縮まる思いでした。(しかも総代の方の隣に座ってしまっていたのでした…(^^;)

最後に一般代表三名の内の一人として、玉串奉奠に臨んだのですが、何故かその時、
『根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu) SUN』と浮かび、自身は、その代表だ?!と。
(自身以外に、人は誰もいません。笑)

そっかー、胸を張って望もう！と心を切り換え、感謝と決意の祈りを捧げました。
どんな形であったとしても、自身は白山大神の大御心を顕現するポータルとして生きている！

地上セルフの意識の中にあった小さな壁が、壊れた気がしました。

全員による『君が代斉唱』によってその場が一つとなり、神聖なるエネルギーの中にも、
日本の“大和魂”の力強さと美しさに、胸が打ち震えました。

次に訪れたのは兼六園の一角にある、菅原道真公を御祭神とする“金澤神社”です。^^



こちらは奥の院である根源神界を守護する、根源天界＝新 G のイメージで、
加賀藩前田家の祖先であり、学問の神とされる“菅原道真公”は、

新 G マスターでもあるのだと思います。^^

以前昇殿参拝を行った時、まるで教会の中のような時空がイメージされ、

ここは、隠れキリシタンの里？

“聖母マリア”や“イエス・キリスト”の、深い愛のエネルギーを感じました。^^

隣にある“金城霊澤”、そして本殿の天上裏には、もの凄い迫力の、龍の姿が描かれていて

日の本の黄金龍神であり、ある時は、艮の金神でもある、“国常立大神”が、

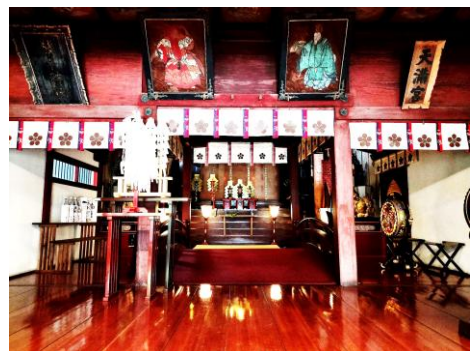
秘め隠されてきた場所でもあるのではないのでしょうか？

なんとなくですが、ここは宇宙の高度な科学技術によって守られている要塞（秘密基地）?!

のイメージで、小さな敷地内に大きなロマンを感じます！^^

昇殿参拝では、その時までまったく想像していなかった“赤”を感じました。

金澤神社の頂点に立ち、全てを見渡す“鳳凰”が象徴するエネルギーなものかもしれません？



玉串奉奠では、赤い橋(アンタカラナ?)を渡り、最奥へと進むことが許され、

根源神界の核心である“根源天照皇太神”(根源太陽母神)＝“究極の愛”(究極の赤)の懷に

飛び込んでしまった?! かのような驚き…、喜びと深い感動に包まれました。^^

最期、締め括り？は、自宅の氏神様でもある、“金劔宮”です。^^

金劔宮における昇殿参拝は、今回が初めてなものでした。

思えば、地上セルフは白山(神界)という、とてつもなく大きな世界に夢中になっていて、

身近なこと、日常的な物事(氏神様の管轄？)に、無頓着だった気がします。

改めて、生活に密着した身近な願いとは…？と考えてみると、

心からやりたいと思う、自身にしか出来ない事を、日々の仕事(奉仕)にしたい！であり、

それは『根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN』そのものです。^^

生活の為にする仕事ではなく、自身の生きがい、喜びが、そのまま他の人の幸せであり、

社会全体の幸せにつながっていくという理想を、現実にする事でもあります。

昇殿参拝は、太古の時代にタイムスリップしてしまったかのよう？

神代から続く古き良き日本の伝統というか、誠実で真心のこもった祈りの場を実感しました。^^

金劔宮の宮司さんは、出来る限り個別の対応を心掛けておられるとの事(感激です)、

昇殿参拝前に、「願い事は何ですか？」と尋ねられたのですが、

根源 AP について上手に説明する自信がなく、「本当にやりたい仕事に、就きたいのです。」

としか言えずにいと…、「では、諸々ですね！^^」との軽やかなお返事に、

ザックリ だけど シックリ?! 妙～に納得してしまいました(笑)^^

まさに、『根源 AP』は諸々が動く場(多次元宇宙)であり、それが本当に始まる!!!と。

この度は、日の本龍神(国常立大神)が動いた？と感じて、自身(神)も動いた?! という、

なんの根拠も保証もない、直感の赴くままの行動であり(いつものことでもあります)、

地上セルフとしての役割が果たしているのか？はわかりません。けれど、

三社を巡る事によって、地上セルフ自身は大きく前進した！＝アセンションした！であり、

宇宙の法則である、「アセンション＝ライトワーク」では？^^ 違うかな？

2023年10月 雲が呼んでいる？(はじめての出雲)

2023年10月、実父の49日に間に合うように、はじめての出雲へと出かけました。^^

何故そのような時にでかけたのか？ですが、呼ばれたから…でしょうか？

地上セルフの実父＝“国常立大神”(艮の金神)であり、

そのパートナーである、“豊雲野大神”(坤の金神)に、です。^^



全くイメージになかったのですが、出雲は、“雲出づる地”であり、至る所に雲が現われ?!

豊雲野大神が秘められていた場所なのだと、感じざるを得ませんでした。^^

面白かったのは、そのしばらく前から自室の窓の外に、大きなクモが巣を張っていて、
何で突然こんなところに？で、ちょっとキモイ(^;…でしたが、取り払うのも気の毒な気がして、
どうしたものかと思っていたのでした。(鈍感な地上セルフに対するダメ押しだった？笑)

出雲から帰って気付くと、跡形もなく消えていました。^^

それほど？ 国常立大神は49日までに、どうしても豊雲野大神に会いたかった…であり、

自身としては、豊雲野大神(ポータル)として、49日までに、

どうしても国常立大神に会いたかった…、という事なのだと思います。^^

地上セルフは、実父が亡くなってから毎日位牌の前に座り、水を捧げ、ろうソクに火を灯し

父の幸せと、これからの世界の幸せとを祈り続けてきました。

無意識ではありますが、集中して取り組んだ“火と水の統合ワーク”？とも言え

火(巖)である国常立大神と、水(瑞)である豊雲野大神につながっていたのかもしれませんが。^^

二神がこの世で再会を遂げる事は、そのまま地上における復活を意味し、

再び、国常立大神を中心とした日の本再興が、はじまっていくのではないのでしょうか？

現実と妄想？がゴッチャになってしまっている…とも言えますが、
時間や空間の制限を超えて、その願いのポータルとなるのが“神人”でもあり、
神々は今、それを望んでいるのではないのでしょうか。^^

右上の写真は、出雲大社境内にある“ムスビの御神像”を撮ったものですが、
自身は以前(2021年7月)、この像にそっくりの“大国主命”を見た事があります?!
たくさんの異名を持つ“オオクニヌシ”は、国津神の主宰神、日本国を造った神と言われ、
知らない日本人はいないのではないのでしょうか？^^

石川県の加賀一之宮は白山比咩神社ですが、能登一之宮とされるのが“氣多大社”であり、
その本宮とされる“能登生国玉比古神社”^{のといくにたまひこじんじや}の御祭神が、大己貴命＝大国主命です。

氣多大社参拝前にそちらを訪れ、正門から本殿へと向かって歩いて行くと、
まるで本殿が化けて出た？と感じるような、巨大な男性像？が大きく手を広げて待っています？
広げた手から溢れ来る、膨大な愛のエネルギーにウルウルし、心が喜びで一杯になりました。

あれは一体何(誰)だったのかしら？ どこかで見た事が…、そう！

以前ネットで目にした、出雲大社の大国主命では？

自身はその時初めて、本当のオオクニヌシに出会えた?!気がして、もの凄く感動したのです。

その後調べてみると、ムスビの御神像である事がわかり、今回、初のご対面となりました！
手前に見える黄金色の光の玉は、大国主命の幸御魂と奇御魂(ともに和御魂)であるとされ、
自身はこのムスビの御神像に、“和御魂”を恋願う、大国主命の“後ろの正面？”を感じます。^^

古神道には、“一霊四魂”という考え方があるとされます。

一霊四魂説のもっとも一般的な解釈は、神や人には
荒魂(あらみたま)・和魂(にぎみたま)・幸魂(さきみたま、さちみたま)・奇魂(くしみたま)の四つの魂があり、
それら四魂を、直霊(なおひ)という一つの霊がコントロールしているというものである。
和魂は調和、荒魂は活動、奇魂は靈感、幸魂は幸福を担うとされる。(ウィキペディアより)

四魂は荒御魂と和御魂とに大別され、幸御魂と奇御魂は和御魂の中に含まれます。
直霊とは、四魂の背後にある全てが統合された姿(完全体)であり、四魂のバランスをとり、

その力を最大にする“ハイアーセルフ”(後ろの正面)とも言えるのではないのでしょうか？^^
自身が能登生国玉比古神社(氣多本宮)で、本当のオオクニヌシに出会えたと感じたのは、

この一霊四魂を、全身全霊で感じたからなのかもしれません。^^

正面で大きく手を広げて待っていたのは、オオクニヌシの“荒御魂”の側面であり、

自身は、黄金色の光の玉＝“和御魂”(幸御魂、奇御魂)の側面であり、

その二つの側面が統合され、一霊四魂(真のオオクニヌシ)となったのでは？と。^^

それは、加賀＝“カガ”の白山比咩、“菊理姫”であり、女性性の側面(和御魂)と、

能登＝“トト”の氣多大社(能登生国玉比古神社)、“大国主(スサノオ)”男性性(荒御魂)
という、石川における二つの一之宮の統合を意味するものでもあるのではないのでしょうか？

オオクニヌシの後ろには、スサノオがあり、更に後ろには、クニトコタチがある！

その和御魂パワーが全開となることで、ミロクの世界がはじまっていくのではないのでしょうか。^^

氣多大社と言えば…、自身は2018年に、それまで名前も聞いたことが無かった、

富山県の“二上射水神社”を訪れたのですが、

社殿から氣多大社がイメージされ、何故だろう？と調べてみると、

能登国が越中国の一部であった時代、越中国の一宮は現在の氣多大社(氣多大社)であったが、
能登国を分立する際に、二宮であった射水神社が越中国一宮とされた。(『白山記』ウィキペディア)

とあり、能登が越中国(現在の富山県)の一部となっていた時代(大化の改新前)、

氣多大社は、富山県の一之宮であった事を知り驚きました。

『白山記』には、その後継となったのが(二上)射水神社であると記されていて、
地上セルフは、いつもただなんとなく動いている感じがしますが、白山大神の導きのままに、

その歴史を遡るような形で、一なる源への統合・回帰(根源へのアセンション)という

道のりを歩んでいるのだと、改めて思いました。

その日は、二上射水神社の前に“皇祖皇大神宮”を訪れていて、

そこでベンチに座っていた見知らぬ男女の方に、隣に座るようと手招きされました。^^

自身が、白山比咩神社のある石川県から来た事をお伝えすると、

お二人も、これから白山比咩神社へ行くつもりであった事と、
「富山はトト、石川(加賀)はカカで、二人はペアだよ！^^」と、笑顔でおっしゃいました。

その言葉が、自己の中心にストレートに響き渡り、少し不思議でもあったのですが、
後にお二人の姿が、“イザナギ・イザナミ”の二神に重なって感じられてきて、
この出会いが、とても大きな意味をもっていた事に気付きました。

自身は、“皇祖皇大神宮”に、男性性を中心とした、旧宇宙期における御役割(御経綸)を感じ、
二上山を御神体とする“二上射水神社”に、これまで秘められてきた女性性の復活と、
男性性と女性性が統合された、新しい宇宙期における御役割を感じます。^^

二上射水神社に行ってみたいと思った理由は、“菊理姫”が登場するとされる謎の？“築山行事”
なるものに興味を覚えたからで、二上とは、“二神”でもあり、イザナギ・イザナミの両神で、
築山行事とは、菊理姫が二神の間に割って入る、統合の御神事だったのでは？と。^^
また二神は、“スサノオとアマテラス”でもあり、“天の岩戸開き神事”がイメージされます。

そう言えば、二上射水神社本殿で、自身の目に最初に飛び込んできたのが、
光り輝く注連縄?!であり、注連縄の起源は古事記の天岩戸神事ではなかったでしょうか？
遷座された射水神社の御祭神が、“二上神”＝“瓊瓊杵尊”(天照神の孫神)と謳われている事が
その証である気がします。^^

(御神体山“二上山”が背後にある二上射水神社は、明治時代に別の場所へと遷座されていて＝射水神社、
その分社という形でその地に残りましたが、後に独立し“越中総社射水神社”を正式名としています。)

アセンションは、一なる源へと帰っていく事であり、様々な姿形となって見えてくる陰と陽、
男性性と女性性等の二極の統合が、重要になっていくのだと思います。

お二人の言葉通り、富山県は“トト”であり男性性の側面、
石川県(加賀)は“カカ”であり女性性の側面をもつ、大切なパートナーであり、
二県を代表する“立山”&“白山”は、“富士山”と並ぶ“三大霊山”の内の二つでもあります！
それぞれの神界(宇宙座標)とつながる、莫大なパワーを秘めた神工のピラミッドとも言え、
そのコラボによって創造されていく、新しい日本の未来が、超楽しみです(^^)v



白馬岳付近から臨む、立山連峰とその奥に見える白山（ウィキペディアより）

出雲大社に関するコンテンツは、二度追記・更新しています。^^

まさに今作成中のコンテンツもそうですが、

アセンションは、常に高次との、リアルタイムのコ・クリエーションであり、
発進したら終わりではなく、そこから更なるコ・クリエーションの輪が広がっていくことを、
日々益々実感しています。^^

なので最近、最後まで無理にまとめようとしないう…、なんかまだある気が…？のまま、

ブログやコンテンツを思い切って発進してしまいます。（笑）

伸びしろをそのままにしておく＝可能性の扉を開いておく、ことも重要なのでは？と

思うようになりました！^^

出雲の最初のコンテンツも、まだ気になる事があったのですが、触れずに残しておきました。

その時点ではまだ見えていないものがあり、そのうちわかってくるのでは？という感じ、

地上セルフの頭で、無理やり結果をださない、です。^^

その後わかってきたことを、追記版2にて図式化したのが、下記です。

気になっていた部分というのは、

出雲で最後に撮った写真に見る“色合い”が、とても印象的だった点です。

（もう日が暮れていたのですが）“青”く見える空に、“赤”と“緑”のランプが浮かんでいて、

何故こんなに気になるのだろう…？という感じでした。^^



そのうちイメージされてきたのが、“光の三原色”で、光＝エネルギーです。^^

私達が普段見ているテレビやパソコンの画面は、この三つの光(青・赤・緑の三色)の

組み合わせによって、目の前に映し出されている世界であり、それは、

この世界そのものを生みだしている“光エネルギー”とも言えるのではないのでしょうか？

自身は、緑に“天之御中主大神”を、青に“豊雲野大神”を、赤に“国常立大神”を感じます。^^

この三つの光が重なった中心は、“白”であり、あらゆる全ての光の源(光源)である

“根源天照皇太神”＝“根源太陽”です！

これまでの私達(地球と宇宙)には、この中心(核)の部分が見えていなかった為、
最後の一厘(究極の愛)が抜け落ちた、不完全なエネルギーの場に生きていた？とも言え

今地上に誕生しようとしている“皇人”とは、自己の中心に根源太陽が輝く人であり、

まさに、この図を体現した人(日戸、霊止)＝新しい地球と宇宙の創造者でもあります。^^

気になる…は、魂の知らせであり、やがてワクワクの世界が見えてくる！ではありませんか？